

## 駒ヶ根市議会 議会広報モニター会議で出された意見・感想

日時：令和8年5月23日（土） 13時30分～15時35分  
会場：駒ヶ根市役所

グループ	議員	モニター
A	竹村誉、福澤美香、中山万宝、藤井邦彦	6名
B	小原茂幸、小原晃一、池田幸代、押田慶一	6名
C	竹村知子、今堀雷三、竹上陽子、宮下稔、小林敏夫	5名

### 1、議会だよりについて

- ・以前と比べて読みやすくなり、面白くなった。市民とのキャッチボールができている感じがする。
- ・YouTube 配信などもあり、オープンな印象を受ける。
- ・表紙は良いが、若い世代は手に取らず、中身まで読まない人が多いと感じる。
- ・市報は読むが、議会だよりは見ないという人が多い。身近な議員が載っているページは見る。
- ・モニターになって初めて読んだ。議会だよりを改めて見ると議員の活動がよく分かる。
- ・紙面の文字が多く、全体的に硬い印象がある。コラムなどは角をなくし、柔らかいデザインにしてはどうか。
- ・「市議会だより」という名称が堅い。もっと親しみやすいタイトルにしてはどうか。
- ・表紙や紙面のデザインについて、専門のデザイナーを活用したり、デザインコンペを行ったりしてはどうか。
- ・全国でも注目されるような議会だよりを目指してほしい。
- ・市民を掲載する記事を増やすと、本人や家族、知人など多くの人が見るようになる。
- ・おもな議案の審議結果のページは内容が難しいが、賛否が分かれた議案等に対する議員の○×の表記は分かりやすい。
- ・議会だよりの配布方法を見直した方が良い。手元に届かないことがあり、資源ごみになっている可能性もある。
- ・配布日が他の広報紙と重なり、埋もれてしまっている。
- ・市報は多くの人を読んでいるため、市報と一体化することも検討してはどうか。
- ・議会の傍聴をするようになってから、議会だよりも読むようになった。
- ・議員自身が傍聴や議会だよりの閲覧を呼びかけることも重要ではないか。

## 2、議会活動について

- ・議員は以前は遠い存在に感じていたが、実際に話をすると話を聞いてくれる身近な存在だと感じた。
- ・地域行事や消防団活動などで議員の顔を見る機会が多く、親しみを感じている。
- ・来年の市議会議員選挙では、各地区から議員が選出され、議員空白区が生じないようにしてほしい。
- ・他自治体の議員は執行部への働きかけを積極的に行っている。市民に寄り添いながら活動してほしい。
- ・市民の困りごとに真摯に耳を傾ける議員であってほしい。
- ・一般質問では結論を先に述べ、前置きや事例説明を簡潔にしてほしい。
- ・一般質問を傍聴しても、執行部の答弁が期待した内容でなく、物足りなく感じることもある。
- ・市民の声を議員へ届ける方法が分かりにくい。
- ・主権者教育は高校生だけでなく、中学生を対象に行うことも有効ではないか。
- ・農業に関する議論や話題が少ないように感じる。
- ・区長経験者など地域課題を把握している人材が、市政に関わる仕組みも必要ではないか。

## 3、市政について

- ・市は様々な施策に取り組んでおり、全体としてはよくやっていると感じる。
- ・「できない」「お金がない」ではなく、市民の声や少数意見を聞きながら行政運営を行ってほしい。
- ・観光客からおすすめの場所を聞かれても案内先が限られている。文化や特色を生かしたまちづくりを進めてほしい。
- ・駅前の活性化を望む声が多い。商店の閉店により不便を感じる人もいるため、市民にとって便利な施設やサービスを検討してほしい。
- ・駅前ビルへの行政機能の配置や、駅前商店街を含めたリノベーションを進めてはどうか。
- ・当市は自然や景観が素晴らしく、人も優しい。若い世代や移住者にもっと来てもらえるまちになってほしい。
- ・移住者に対して自治会加入の意義や活動内容を丁寧に説明しないと、自治会離れにつながるのではないか。
- ・外国人が住みやすいまちづくりや、市民との交流の場づくりを進めてほしい。
- ・外国人は仕事を見つけにくいという声がある。
- ・ごみの分別ルール違反や他市町村のごみの持ち込みへの対策を強化してほしい。
- ・避難所の使い捨てトイレが不足しているのではないか。防災備蓄の充実を望む。
- ・消防団の活動や負担に見合った処遇改善を検討してほしい。
- ・不登校や引きこもりの方など、移動手段を持たない人のために予約制の小型シャトルバスなどを検討してほしい。
- ・若い職員や職員の意欲を生かせる組織づくりを進めてほしい。
- ・市長には、市の魅力や取組について積極的に情報発信・PRを行ってほしい。